

研究部だより

秋田県立栗田支援学校

研究部 第1号

令和7年7月2日発行

今回の研究部だよりでは、4月25日（金）に行われた研究全体会のアンケート結果と、各学部研究について紹介します。研究テーマは「児童生徒が生き生きと学ぶ姿を目指した授業づくり」（1年次/2年）です。先生方から協力していただいた研究全体会のアンケートと合わせてお伝えします。

全体研究会アンケートより

はアンケート結果、 は研究部より

- ・「生き生き」の部分が明確だとよいと感じた。
- ・「生き生きと学ぶ」その姿を学校または学部として、何か定義をつけるのか。



○「生き生きと学ぶ姿」について各学部・学科で具体的な姿を考えました。詳しくは裏面の各学部研究についてご覧ください。

- ・的確な実態把握とは、多数で話し合うことで客観的になっていくという捉えでよいのか。
- ・「自立活動の視点を取り入れた授業検討・授業改善」を行うことで、児童生徒の実態把握がより深まり、的確な実態把握につながると思った。



- 実態把握の一つとして、児童生徒の思い、願いを含めた実態把握を行います。より詳しく丁寧に把握できるよう、学校生活や学習から教師が見取ったり生徒との個別面談から聞き取ったりします。年間を通して変容が分かるように、学部に応じた様式や方法を検討していきたいと考えています。
- 児童生徒の実態を自立活動の六つの区分で整理することで、背景にある学習上の困難さを明らかにし、授業の指導上の留意点や個別の手立てに反映します。複数の職員で実態を再整理することで、より客観的に見直し、整理することができると考えます。

- ・生徒の興味や関心を引き出すことを学舎共通で情報共有できるとより研究が進みやすいと感じた。
- ・的確な実態把握のために、学部と舎と連携を密にしながら進めていきたい。



○生徒の興味・関心や思い、願いについて、学舎間での情報共有をしていくことが必要だと考えています。対象生徒を中心に、情報共有の方法を考えていきたいと思います。

- ・「当たり前のことを突き詰めていく」という視点を大切に、日々の授業実践を見直していきたい。
- ・授業者だけでなく、みんなで授業をつくれるような進め方であるとよい。

この他にも、たくさんのご意見をいただき研究内容や方法を見直しました。先生方のアンケートは、共有□→研究部□→4研究全体会□→アンケート集計にまとめてありますので、御覧ください。

研究テーマ「児童生徒が生き生きと学ぶ姿を目指した授業づくり」

全校研究会を踏まえて、各学部研究の方向性が見えてきました。各学部研究のテーマや内容についてまとめました。＜的確な実態把握＞＜自立活動の視点＞についての方法も取り上げているので、ぜひ他の学部の取り組みについても目を通してください。

小学部

～児童が「できた」という達成感を味わい、自ら学習に取り組む姿を目指して～

【研究対象授業：遊びの指導／生活単元学習】

小学部では、「生き生きと学ぶ姿」を『できた』という達成感を味わい、自ら学びに取り組む児童」と捉えました。児童の思いや願いを含めた児童の実態と、学年で育てたい力と合わせて、「何をどのように学ぶか」を丁寧に検討します。学習活動に「少し頑張ればできる活動」を工夫して設定し、児童の学びを価値付けられるような学習のまとめや振り返りを行うことで、児童が達成感を味わい、自ら次の学びに向かう姿を育むことができると考えました。

- ・児童の思いや願いを含めた実態把握と、学年で育てたい力とのすり合わせ
- ・児童の実態の整理と捉え直し（自立活動の視点）
- ・「できた」という達成感を味わえる授業づくり
→学習活動の工夫と、まとめや振り返りの充実

中学部

～生徒が目的をもって自ら学びに向かう姿を目指して～【研究対象授業：生活単元学習（進路学習）】

中学部では、「生き生きと学ぶ姿」を「目的をもって自ら学びに向かう姿」と捉えました。今の自分やこれまでの自分を知り、将来の自分をイメージするプロセスを通して、なりたい自分像をもち、そこに迫る授業づくりをすることで、自ら学びに向かう姿が実現できるのではないかと考えました。

- ・個別面談の機会の設定
→生徒の思いや願い、なりたい自分について整理する。
- ・学習の目的と学び方を明確にした授業づくり
- ・学習の成果の見える化
- ・生徒の実態の整理と捉え直し
→対称性との実態を **自立活動の6区分** に整理し行動の背景を考える。

高等部普通科

～ワン・ステップシートの活用を通して～

【研究対象授業：職業】

高等部普通科では、「生徒が目の中の課題に興味・関心をもち、課題解決に向けて周りやものに働きかけながらよりよい答えを見付け出そうとする姿」を「生き生きと学ぶ姿」と捉え、生徒が自分自身や周りの人との対話する機会を設定していきたいと考えています。

- ・生徒理解を目的とした定期的な面談の実施
→生徒の等身大の願いや想いを把握する。
ワン・ステップシート
- ・学年会での多面的な生徒についての実態把握と共有
→実態の捉え直しと整理、それに応じた手立てと配慮
- ・学習課題の焦点化 **自立活動チェック表**
- ・興味関心を取り入れた学習課題と個別最適な学びと協働的な学習の機会 **単元プランニングシート**

高等部総合サービス科

～生徒が自己理解を深め、
なりたい自分に向かって行動する姿を目指して～

【研究対象授業：道徳】

総合サービス科では、生徒がよさや課題に気付き、将来の姿を具体的に考え、目的や目標を明らかにすることで、生き生きと学ぶ姿へつながると考えました。

研究方法は以下のとおりです。

- ・生徒理解を目的とした定期的な面談の実施
→「**目標達成シート**」の活用
- ・自分に合う学び方の分析
→「**学び方アンケート**」の活用
- ・障害特性の確認と生育歴の整理
→「**自立活動流れ図シート**」の活用
- ・学習の目的理解と学びの蓄積
- ・校内外の人材との連携（学科研修会の実施）